

「総合的な学習の時間」の重要性

【視点】

「学力低下」論争を冷静にとらえた「総合的な学習の時間」の重要性

まずは、学力低下論争の歴史的背景を眺めてみたい

学力論争は、経済的不況と機を一にする

戦後の学力論争史

- 1948年 米使節団が輸出振興策など発表
戦後の経験主義的新教育批判と「学力低下」論
- 1961年 「岩戸景気の終わり」
学力は狭義で、計測可能な能力に限定すべき
- 1975年 完全失業者 100万人突破、企業倒産件数史上最高
過度な受験戦争の批判、77年学習指導要領改定、詰め込み教育を反省：学習内容と授業数の削減「ゆとりの時間」導入
- 1992年 前年バブル経済崩壊
新学習指導要領の実施に伴う新しい学力観の打ち出し
- 偏差値追放 内申書重視、指導 支援、学力の質の低下、人格的発達阻害
- 1999年 本格的金融危機、大手企業の経営危機
トップ大学の経済学部学生の学力低下問題に端を発した。
- ~
- 2002年 しかし、いつの間にか小中の義務教育課程にも直撃

【望まれる学習像】

教科指導：授業観を「できる（基礎）」ための「手段」にとどめておくのではなく、学ぶ対象の意味が十分つかめ、真理や法則を発見・発明した先人たちの喜びや苦労も偲ぶことができるような「わかる（基本）」ことへと転換する。

総合的な学習：社会に存在する様々な問題を多様な角度からしっかりとらえ、他人の声に柔軟に耳を傾け、その本質に切り込み、鋭く分析・総合し、自分の見解をかため、そしてそれを他人にわかるように表現する経験を積み重ね、「生きる力」を身につけていく。

学ぶ意欲の向上・意志ある学びこそ、今求められる学習像だ

自尊感情（セルフエスティーム）

よい子ストレスの払拭

学びのすすめの影響

2002年1月「学びのすすめ」...基礎基本を「基に」生きる力の育成を

総則...生きる力の育成「とともに」基礎基本の重視

基礎基本を狭くとらえる = 「詰め込み」の実践の広がり

【社会のムード】

長引く経済不況、各界のモラル崩壊
自信 喪失 (ゆとりと程遠い社会情勢、ムード)
確かな実感にもたれかかる(詰め込み教育への逆行・ゆとり批判)

学校週五日制とゆとり教育

2002年4月完全学校週五日制実施 労働側の要請を受けての政策(企業戦士への国際社会からの批判:80年代後半 週休二日制)

学習指導要領の目玉「ゆとり」 = 自ら考える力を育て、「生きる力」を豊かに 授業の質を高めて学力のさらなる向上を

学習内容の3割削減、台形の面積、円周率等 指導要領への誤解と批判 「ゆとり」=「ゆるみ」 「学力低下」

「ゆとり」の反対は「詰め込み」のはず

レベルの低い教科書では「できる子がどうなる」 発展学習の推奨、習熟度別授業

カギを握る「総合的な学習」の時間

今回の学力低下論発生の背景とその特徴

- 急に始まった：マスメディアと政治「教育国会」と2002年学習指導要領
- 大学人発：経済学部受検科目の不具合なのに小中高の数学力低下へ
(現場、子ども無視のデータ主義的強引論調)
- 高度経済成長下の受験勝ち組男性による議論
- 「学力とは何か」を論じていない

学力低下が引き起こされる子どもの状況

- 手段としての学習の魅力が薄れた(学歴主義的価値観の崩壊)
- デジタル、IT機器の発達普及
- 遊びの激減
- モラルの崩壊と大人たちの元気のなさ
- 環境破壊への怯え

等

激しい社会の変化の中で、子どもたちは、生きがいや将来への希望がもてぬ生き方をしている。問題は、学力を支える情念・意欲の領域である。

子どもに依拠した学力論から学びを再考すべき

現場や子どもと乖離したところで論議される学力低下論争

私たち現場の教師は論争に振り回されてはいけない